

# 中央社会保険医療協議会 総会議事概要（案）

## 1. 日時

平成15年7月30日（水）11:13～11:35

## 2. 場所

厚生労働省専用第22会議室（18階）

## 3. 議題

高度先進医療専門家会議の検討結果について  
医療用具の保険適用について

## 4. 議事の概要

- 高度先進医療専門家会議の検討結果について事務局より資料（総-1-1から総-1-3まで）の説明

### （2号側委員）

- ・ 総-1-3の3ページの悪性黒色種、乳癌のリンパ節の同定に関して、患者に不必要な侵襲を与えずに済むということで申請されたと思うが、悪性黒色種に関して、相当バリエーションがあり血行転移を起こす例も結構ある。悪性黒色種を対象とした症例は何例あったのか。

### （事務局）

- ・ 悪性黒色種は5例である。

### （2号側委員）

- ・ 申請が14年11月なので、それ以前にある程度フォローしているとは思いますが、侵襲を与えず、かつ患者に対しての効果も十分であったということで、専門家会議として認めたと理解していいか。

### （事務局）

- ・ そのとおりである。

### （1号側委員）

- ・ 一度保留になっているものがあるが、どのような経過で専門家会議の判断が変わったのか知りたい。この間にどのようなことがあって専門家会議の判断が変わることになったのかということが分かる資料をつくるべきではないか。
- ・ もう平成9年当時の申請などはなく、すべて整理したと言えるのか。

(事務局)

- ・ すべて整理している。
- ・ 5ページについては、症例数の増加と、大学に類似の技術の関係について資料の提出を求めたというということである。
- ・ 6ページについては、従来の診断法との比較についてのデータが不備であったということも踏まえて、大学からデータを提供いただいた結果、5年かかってしまったということである。
- ・ 4ページについては、技術が洗練されて安全性が向上したと報告を受けている。これにより、反回神経麻痺の合併についての不安というものはなくなったと報告を受けている。

○ 医療用具の保険適用について事務局より資料（総-2）の説明

○ 平成13年度国民医療費の概況について事務局より説明

(1号側委員)

- ・ 2025年に医療費が60兆円になるという予測が出ているが、当然、こういうデータをもとに推計された数字なのか。

(事務局)

- ・ 2025年の数字は、国民医療費であり、70兆円ということで今まで計算した数字を提示している。この数字については、平成7年から11年の医療費の伸びの傾向があり、高齢化等を除いて、1人当たり医療費ベースであるが、若人で2.1%、老人で3.2%ということで、実績から推測してその傾向をそのまま伸ばしたという形の数字である。したがって、当初の傾向の4%程度で伸びていって、2025年まで達すると70兆円という推計が出る。

(2号側委員)

- ・ この資料の数字は2002年で、2025年まで24年間で医療費が大体40兆円増えることになる。1年平均で1兆数千億円は増えて行くという予想だと考えていいか。

(事務局)

- ・ 3%から4%の伸びが続いていると見て推計している。一定の率で推計をしているということから考えれば、金額的には現在の伸びよりも若干高めの伸び額というものが出てくると思う。

(1号側委員)

- ・ 医療費の推計は毎年やっていただきたい。

(事務局)

- ・ 将来推計自体は若干作業を伴っているが、もともとどういったタイミングで見直すべきかという議論もあると思う。平成13年の数字を見ても、それほど大きく変

わっているという認識には立っていない。毎年見直すことについては、検討させていただきたい。

(1号側委員)

- ・ 毎年やった方が良いのではないか。70兆円と言っているが、決してそのような額にはならない。その前に財政か、保険者の方がパンクする。したがって、傾向をそのまま伸ばした数字をいつまでも使うことは誤解を招くので、毎年直近の時点の数字でやるべきではないか。

(審議官)

- ・ 将来の制度設計の絵姿を考えるときのあくまでの参考として考えるということである。実際問題日本経済の状況もあるわけで、現実には70兆円になるとは思っていない。ただ、1号側委員の言うように、その都度直近の状態では将来の医療費がどうなっていくかというのを見直していくということは大事である。どういうタイミングで必要に応じて見直しをしていくかについては、御指摘のとおり検討したい。

(2号側委員)

- ・ 過去にさかのぼって、何年の時の予想はいくらだったのかという資料も提出していただきたい。

(事務局)

- ・ 資料については用意をさせていただく。
- ・ 国民医療費の将来推計については、実額ベースでは指摘のとおりかなり下がっている。以前の推計では100兆円近い医療費というようなことを提示していたが、今は70兆円ということである。その大きな要因としては、経済の伸び自体も落ち着いてきているということもあって、医療費の伸びも若干落ち着いてきている。対NI比で見ると、過去の推計と現在の推計とは大きな違いはないと認識している。

(小委員長)

- ・ 2号側委員より依頼のあった資料については、実績もあることから作業としては煩雑ではないと思うので、対応をお願いしたい。

(2号側委員)

- ・ 国民所得に対する比率が8.46%と強調されたが、国民所得の方が減っているということを、高齢者の医療が増えたのでというように説明されると誤解を招くのではないか。その辺りも勘案して公表していただきたい。

以上